

令和7年度第2回横須賀市スポーツ推進審議会 会議録

- 日 時 令和8年(2026年)3月10日(火) 10:00~11:10
- 会 場 横須賀市消防局庁舎3階 消防第2会議室
- 出席委員 横須賀市スポーツ推進審議会委員(敬称略 50音順) 6名
石渡淳史、笈修一、加藤明成、東海林義勝、高井環、林但
- 事務局 文化スポーツ観光部 安田憲二部長
スポーツ振興課 高橋哲也 課長、飯田武伸係長、飯島良太主査
小谷大吾 係長、遠藤創太郎主任
教育委員会事務局学校教育部保健体育課 津田尊夫係長
- 傍聴者 0名
- 議事内容 開会
1 議題 令和7年度スポーツ関係事業の進捗状況について
2 報告事項 「横須賀市スポーツ振興条例」について
3 意見交換
- 資 料 1 令和7年度スポーツ関係事業の進捗状況について
2 横須賀市スポーツ振興条例及び逐条解説

【開 会】

事務局が令和7年度第2回横須賀市スポーツ推進審議会の開会を告げた。

● 定足数の確認

12名の委員のうち6名の委員が出席しており、スポーツ推進審議会条例第4条に基づく過半数を超えていることから、会議は成立となった。

● 傍聴者の確認

傍聴者なし

1 議題 令和7年度スポーツ関係事業の進捗状況について

● 概要説明

事務局が資料1をもとに説明した。

● 意見等

なし

2 報告事項 「横須賀市スポーツ振興条例」について

● 概要説明

事務局が資料2をもとに説明した。

● 意見等

なし

3 意見交換

□ 委員長

意見交換に入ります。質問、ご意見等いただければと思います。

□ 委員

スポーツ振興条例で障害者スポーツの推進について、特化していただき、ありがとうございます。条例に条文として言及があることで、活動がしやすくなる部分もあると思います。壮行会や表彰なども他のアスリートと一緒にさせていただき、ありがたく思っています。4月から屋内プールが料金改定ということ

で、物価高騰などもあり、やむを得ないことと思います。一方で、中学生以下が無料になるということで、すそ野を広げるといいことではあります。懸念が1つあります。夏休みの時期は今でも混雑するところなので、小中学生が無料になったことで、大きく来場者が増えた場合の安全性の確保をお願いしたいところです。

□ 委員

1年間ありがとうございました。スポーツ振興課や教育委員会のお力添えのもと、これだけ多くの事業を盛会のもと無事に終了できるということで、本当にうれしく思っています。

今年に関しては、デフリンピックでの加藤姉妹の金メダル獲得は特出したものではないかと思えます。先日のスポーツ表彰式にお越しいただき、ご挨拶をいただきましたが、横須賀を大変元気づける活躍だったのかなと強く印象に残っています。

□ 委員

多くの事業が行政のバックアップできていることに敬意を表するとともに大変うれしく思っています。

スポーツ振興条例について、子ども、障害者とともに高齢者の活動もスポーツにおいては欠かせないものと思っています。「生涯にわたる」という表現に高齢者を含むということかとは思いますが、高齢者についても触れて欲しかったと思いました。

□ 委員

2年間携わらせていただいた中で、部活動の地域移行について、議論を深めなければいけないものと感じています。人口が少なくなっている中で、地域移行により、教員の労働時間が減っていくのかという検証も含め、メリット、デメリットはあると思いますが、検討が必要だと思います。例えば、どのような子ども達でも参加できるのか、障害のある子どもたちが地域移行になった時に、どういった形で受け入れられるのか、費用面では部活動と同じくらいの支出で実現できるのか、いろいろな検証をしなければいけないと思います。教員の労働時間に関するニュースを見ましたが、少しは減ってはいるようですが、人口の低下とは相対しないことが見えてきたと思っています。地域移行の中で、学

校と市民が現状よりもメリットの多いスポーツの関わり方や楽しみ方はどういった形が望ましいのかをこれからもっと意見をいただき、実現できたら良いと感じています。

□ 委員

今年度のスポーツ関係事業の一覧を見ましたら、7割くらいの行事に自分が関わり、自分も応援や観戦にも行きましたが、加藤姉妹の金メダルにはとても大きな勇気をもたらすと強く感じています。

約1年かけて、私の住んでいる地域を中心に14か所、96回のラジオ体操に参加しました。参加して感じたことは、ラジオ体操は地域のコミュニケーションの場として、地域の問題を発掘するのに非常に向いていることを感じました。

また、各学区の体育振興会のいろいろな行事を訪れ、体育振興会の会長や町内会長などと話をさせていただき、それぞれの学区が抱えている課題やいろいろな話を伺いましたので、もう少し続けてみて、そこで感じたことがありましたら、報告をしたいと思います。

□ 委員長

今回、デフリンピックで金メダルを取られた加藤姉妹やオリンピックで活躍する選手を見て、非常に励みになりました。一方で、メダルは取れなかった人たちも同じように必死に頑張っています。子どもを指導する中では、勝った子にはよかったなという程度でよいかもしれませんが、一生懸命頑張ったけれど負けてしまったという子どもにはどう声をかけたらよいか、それは勝った子に声をかける以上に考え、悩みながら対応しているところです。

スポーツは戦争ではありませんが、戦いではあります。それでも、ただ勝てばいいというものではありません。スポーツ関係者、特に指導者は結果がよかったということだけでなく、見えないところの頑張りや努力といったものも気付きながら、うまく指導していけるようにと思っています。

□ 委員

小中学生のプールの無償化に関連して、夏休みに小中学生で混雑したプールに知的障害や自閉症の方が訪れ、パニックになってしまわないか、パニックになってしまった場合、施設側で対応できるものかどうか心配しています。例えば、障害者グループに限って、周りの安全を含め、7月、8月の団体の優先使

用をご検討いただければと思います。

部活動が地域に移行された場合、障害者に対するスポーツ指導はどうかという点は、パラスポーツ指導者協議会としても非常に頭を悩ませている部分ですが、それぞれの協会や団体に一緒にやらせてください、わからない部分はレクチャーしますと声かけをさせていただき、少しずつ受け入れていただけるようになってきています。

□ 事務局

委員から話のありました料金改定につきましては、スポーツ施設に限らず、会議室などを含め、基本的には料金を上げることになっています。その中で、プールについて、小中学生以下の子どもが無料になるので、夏休みの混雑が懸念されるという話ですが、混雑する可能性は高いと思います。ただ、現時点で、そのことに対する方策は見出していません。

障害者グループの専用使用のお話がありました。これまでは、7月、8月の午前中の団体専用使用はできないことになっていましたが、条例を改正し、午前中も専用使用をできるように変更しています。障害者の方の利用だけではありませんが、専用使用の幅が広がることにはなります。

学校プールに関しては、これまでは夏休みを挟んで9月以降も水泳授業を行っていたため、夏休み期間もプールを継続して維持管理する必要があり、夏休み期間に地域の団体が利用できるプール開放を行っていました。次年度から教育委員会の方針として、水泳授業は夏休み前に授業を終え、9月は授業を行わないこととしました。そのため、夏休みのプールの維持管理の必要性がなくなりましたので、原則、地域の団体への開放も利用できなくなる見込みです。

公園管理課が所管する屋外の市営プールについては、馬堀海岸プールと長沢村岡プールの2つが市営プールとして営業しています。それ以外に閉鎖した市営プールの代替プールとして、8校の小学校プールを指定していますが、それらのプールの開放については、公園管理課で検討していくことになりませんが、屋内プールがあまりにも混み過ぎるようなことがあれば、対応について、考えていく必要があると思います。

□ 事務局

部活動の地域移行に関して、これまでは部活動は先生方の努力で続けていましたが、これからは学校だけではなく、地域全体で見ていくという考えで進めて

いるところですが、今後、その部活動に代わる活動の指導を誰が担うのかという話になります。

中学校の子ども達の活動の受け皿が地域に必要ななってきますが、その場合、学校教育からは少し距離ができることとなりますので、その点はスポーツ振興課や文化振興課などと協議をしながら、地域の受け皿の確保、学校で活動している子ども達がどうしたらスムーズに活動を移行できるかを検討しなければいけないところです。

現在は、既存の部活動の見直しを行い、教員の負担を減らし、部活動を少しスリム化した状態で地域に移行できるような取り組みを行っているところです。その進捗を見ながら、今後に向けた具体の部分を考えていくこととなります。

□ 事務局

高齢者の活動についてのお話がありましたが、健康づくりの観点から健康部ではフレイル予防を行っていたり、文化スポーツ観光部でも高齢者向けのパルクール教室を行っていたり、スポーツを通じた高齢者向けの取組も実施しています。今後、健康づくりに関しては、高齢者向けのものにウエイトを置く方向性になるものと思います。

● 以上で、審議が終了し、閉会した。